

コミュニケーションBOOK

CSR

～ REPORT 2026 ～

[2026年3月期]



けろけろけろっぴは大阪商工信用金庫の
公式イメージキャラクターです!

やさしくて強い信用金庫へ

—— 地域とともに歩むCSRの現在と未来 ——

信用金庫としての使命

信用金庫は、相互扶助を基本理念とする共同組織です。地域に根差し、中小企業や住民の皆さまに必要な金融サービスを提供するだけでなく、地域社会の発展に尽力することが私たちの使命です。金融の枠を超え、地域の未来を支える存在であり続けたいと考えています。

現在のCSR活動の主軸 —— 脱炭素社会の実現に向けて

数多くの社会課題の中で、信用金庫として何が出来るかを問い続け、ボランティアなど様々な活動に取り組んできました。今、特に力を入れているのが「脱炭素社会の実現」です。脱炭素推進は社会的な要請が高まっていますが、実際に率先して取り組んでいるのは大企業が中心です。しかし、日本の企業の99%を占める中小企業こそ、脱炭素に取り組むことが重要だと私たちは考えています。地域の中小企業と日々接点がある当金庫だからこそ、中小企業とともに取り組み、より良い環境を作っていきたいと考えています。また、脱炭素は個人でも取り組めることが多くあるため、個人に向けたアプローチも行っています。さらに、当金庫自身もCO₂排出量の削減に積極的に取り組んでいます。

大阪商工信用金庫の目指している姿

「やさしくて強い信用金庫」—— 私たちが目指すのは、地域やお客さまに寄り添い、社会貢献活動を通じて人と地域を支える“やさしさ”を持つ、地域から必要とされる信用金庫です。脱炭素社会の実現や金融教育、ボランティアなど、地域の課題に真摯に向き合い、安心して暮らせる社会づくりに取り組んでいます。やさしさは地域をつなぎ、未来を支える力です。その一方で、やさしさを持続させるためには、信用金庫としての強さも必要です。私たちは「社会貢献と利益の両立」を実現し、地域社会の発展に貢献し続けます。

CONTENTS

- EXPO2025大阪・関西万博への出展
- 大阪脱炭素・サーキュラーエコノミー
ビジネスコンテスト2026の開催
- インタビュー 株式会社ワイズアップ
「社会の新しい当たり前前の想像と創造に挑戦する企業」
- 本店ビルの使用電力量の測定を開始 他

脱炭素社会の
実現に向けた
取り組み
P.3~9

持続可能な
地域社会づくり

P.10・11

- Shokoグリーンマルシェの開催
- 商工SDGs月間 他

人と地域を支える
社会貢献活動

P.12~14

- 地域の皆さまとともに歩む支店紹介
- 本業を活かした活動
- 文化・芸術振興への取り組み 他



大阪ヘルスケアパビリオンへ出展しました！

2025年に開催された大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオンが実施する「リボンチャレンジ」に参加し、脱炭素をテーマに大阪の中小企業やスタートアップ企業の出展を支援しました。

万博という国際的な舞台上で、地域企業の先進的な脱炭素の取り組みを広く発信することで、社会全体の意識向上と新たなビジネスチャンスの創出に貢献しました。

また、万博を訪れた多くの方々に対して、脱炭素に取り組むことの重要性を伝え、一人ひとりが行動を起こすきっかけとなるよう情報発信を行いました。



大阪の「ドケチ」が世界を変える！

OSAKA DOKECHI TECHNOLOGY

脱炭素の先進テクノロジーを 大阪ならではの**技術**、
大阪ならではの**未来のカルチャー**、大阪ならではの**価値観**で表現。

出展期間 2025年 5月13日(火) ~ 5月19日(月)



展示では、各社の技術を通じて、脱炭素社会が実現した2050年の未来の大阪を表現しました。コンセプトは「DOKECHI」。これは、モノを大切に長く使い、楽しみながらムダをなくすという考え方です。「MOTTAINAI」のように、「DOKECHI」も世界の共通語になることを願い、展示を行いました。

万博出展を経て、当金庫は今後も 地域企業や個人の皆さまとともに、脱炭素社会の実現に向けた取り組みをさらに推進してまいります。

脱炭素社会を 実現するための取り組み

当金庫は、地域社会と企業の脱炭素化を後押しするため、さまざまな取り組みを行っています。

大阪脱炭素・サーキュラーエコノミー ビジネスコンテスト2026の開催

脱炭素経営や循環型経済（サーキュラーエコノミー）の実現に取り組む企業を応援するため、「大阪脱炭素・サーキュラーエコノミービジネスコンテスト2026」の公開プレゼンテーション審査を2026年3月24日に開催しました。書類審査・WEB審査を通過した7社が、先進的な取り組みや新商品の開発について熱意あふれるプレゼンテーションを行いました。



最優秀賞



「石油に頼らない新しい化学繊維」

圓井繊維機械株式会社

優秀賞



帝国イオン株式会社

特別賞



「サーキュラーエコノミーと二酸化炭素を削減するガラス製品」

ジカンテクノ株式会社



会場は超満員となり、質疑応答では審査員からの鋭い質問に対し、登壇者が真剣に応じる姿が印象的でした。登壇者同士や来場者との間で新たなビジネスの話が生まれるなど、実際にビジネスチャンスにつながったという声も寄せられました。



脱炭素セミナーの開催

2026年1月29日、商工しんきんホールにて「中小企業のための脱炭素経営セミナー」を開催し、72名の取引先企業の方々にご参加いただきました。

セミナーは多賀理事長の開会挨拶で始まり、続いて近畿経済産業局 資源エネルギー環境部 カーボンニュートラル推進室長の織田貴士氏が登壇。カーボンニュートラルやGX（グリーントランスフォーメーション）を巡る国の最新動向や、中小企業向けの支援施策について講演いただきました。

また、OSAKAゼロカーボン・スマートシティ・ファウンデーションの加島源大氏からは、SBT (Science Based Targets) 取得の意義と重要性について説明がありました。企業の取り組み事例としては、中小企業版SBTを取得し脱炭素経営に取り組む株式会社林商会（八尾南支店取引先）の取締役 製造部統括部長 坂本亮氏が登壇し、SBT取得に向けた現場での具体的な取り組みを紹介しました。

最後に、CO₂排出量算定システム「ファストカーボン」や「e-dash」の紹介が行われ、参加者の皆さまは脱炭素経営の具体化に向けた理解を深められました。本セミナーは、今後の協業にもつながる有意義な機会となりました。



脱炭素研修の実施

19名の職員が、全5回・計16時間にわたり研修に参加しました。

中小企業の脱炭素経営を後押しできる人材の育成を目指し、脱炭素領域における多様な技術や取り組みに触れる研修を実施しました。研修を通じて、職員の視野を広げ、環境問題への理解を深めるとともに、地域貢献や環境への取り組みをさらに強化する機会となりました。



大阪商工信用金庫では、同事業に賛同するとともに

廃棄するPC400台を愛丸ワークスへ 寄付しました。

▶▶▶ この取り組みにより、約2トンのCO₂ 排出量削減を実現しています。



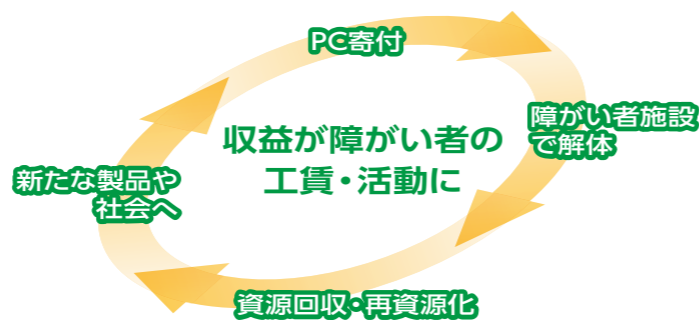
社会の新しい当たり前前の想像と創造に挑戦する企業

インタビュー

株式会社ワイズアップ 川田社長・マイスター* 鳴川さん

*当社における基盤解体の高い技術を持つ障がい者の称号

廃棄予定のPCを障がい者が解体し、基盤などを再資源化する——この新しい取り組みを進めるのは、株式会社ワイズアップが運営する障がい者就労支援施設「愛丸ワークス」。今回は、代表の川田社長と、現場で活躍するマイスターの鳴川さんにお話を伺いました。



障がい者の力で都市鉱山を守る

株式会社ワイズアップ 代表取締役 **川田 康弘さん**

▶この取り組みを始めたきっかけを教えてください。

もともとごみ処理の会社に勤めていたのですが、日本は資源が少ないのに、都市鉱山と呼ばれる貴重な金属資源が海外に流出している現状に疑問を感じていました。また、就労支援施設には“暗い”“賃金が低い”というイメージがあり、何かできることはないかと考えていたんです。そんな時、新潟県で活動されていた日本基盤ネットワークの事業モデルを視察する機会がありました。そこでは、障がい者の方が明るく生き生きと作業し、国内で再資源化を進め、その収益で高い賃金を得ている姿に衝撃を受けました。

▶福祉事業は未経験だったそうですね。

はい。福祉については素人だったので、他社の就労支援グループホームで約7年間学びました。その後4年間は、共感してくれる事業所を増やすためにネットワークづくりに奔走し、2年前に自分の事業所『愛丸ワークス』を立ち上げました。今では関西以西、沖縄まで約60の施設がネットワークに参加しています。

▶ネットワークづくりは苦勞も多かったのでは？

最初は、平均以上の工賃を目指す意識がない事業所も多く、事業モデルを怪しまれることもありましたが、でも、実際に工賃が増え、メディアにも取り上げられるようになると、障がい者にも経営者にも環境にも良いこの事業モデルを理解し、一緒にやりたいと言ってくれる事業所が増えていきました。

▶福祉事業に参入するうえで大切にしていることは？

年齢や性別、障がいの有無でカテゴライズせず、一人の人間として平等に接することを大切にしています。障がい者の方もやりが



いや誇りを持って仕事をするべきだと思っていますし、私自身もそういう施設を作りたいと考えてきました。

▶高い工賃を実現されているそうですね。

現在は厚労省発表の平均賃金の約2倍の工賃を実現しています。まだまだ増やしていきたい。そのためにも、安定したPCなどの寄付がとても大切です。ネットワークの他の施設も、寄付を集めるための営業で苦勞しています。

▶活動の中で工夫していることは？

やりがいを持ってもらうために、解体したものがどうなったかまで説明しています。例えば、東京オリンピックのメダルプロジェクトに参加し、自分たちが解体した資源がメダルになったことを伝えました。結果の“見える化”とストーリーを大切にしています。

▶愛丸ワークスの強みは？

メンバーの仲の良さですね。雰囲気を壊さないように、入ってもらう方の性格も見ている。やる時はやる、休憩時間は和気あいあいと、メリハリを大事にしています。また、毎日の地域清掃も欠かしません。地域に支えられ、必要とされることが大切です。そうした活動を見て、地域の方から家電やPCの寄付をいただくことも増えています。

▶この事業の強みは何でしょうか。

失敗がなく、納期もないことです。解体には守らなければいけない手順がないので失敗がありませんし、一定数集まれば買い取ってもらえるので納期もありません。それぞれのペースで仕事ができるのも、障がい者の方に向いている事業だと思います。

▶今後の目標を教えてください。

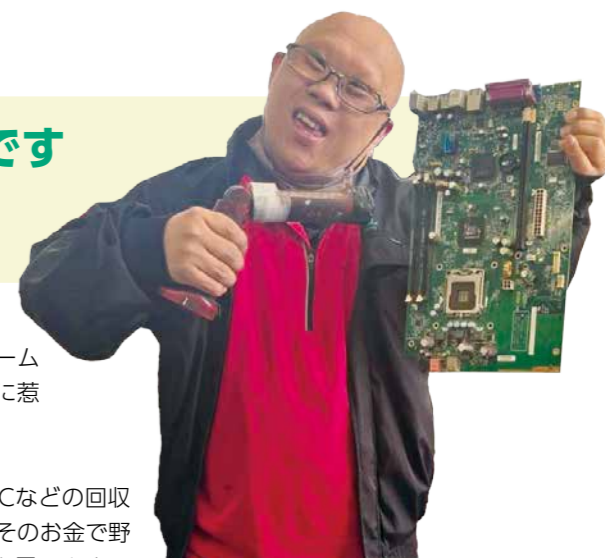
“使用済みの電子機器は障がい者就労支援施設に持っていく”という新しい当たり前を定着させることです。さらなる工賃の引き上げと事業拡大のために年商100億円を目指しています。一人でも多くの障がい者の方を幸せにし、都市鉱山の最後の砦となるためにも、新しい当たり前を実現したいと本気で思っています。

▶最後に読者へのメッセージをお願いします。

障がい者を守り、日本の資源を守るために、PCなどのご寄付をぜひお願いします。

やりがいをもって仕事ができるのは幸せです

なるかわ よしのり
マイスター **鳴川 貴士さん**



▶この仕事を始めたきっかけは？

前のグループホームを含めると13年前からです。もともと通っていたグループホームの代表が幼馴染で、その代表が川田社長と友達だったこともあり、川田社長の人柄に惹かれて愛丸ワークスに移りました。立ち上げから参加しています。

▶仕事のやりがいや楽しいことは？

デスクトップやサーバーなどの大きいものを解体するのが楽しいです。遠方までPCなどの回収に向いて企業の方と話すこともやりがいですね。頑張っって働いて給料をもらい、そのお金で野球観戦やユニバーサルスタジオジャパンに行くときは、仕事を頑張っってよかったなと思います。

▶作業を通じて身についたことは？

パッと見ただけで、どう解体したらいいかが分かるようになりました。

▶仕事で大切にしていることは？

笑顔と、みんな仲良くすることです。悩んでいる人がいたら一緒にコンビニに行って話を聞いたり、積極的に声をかけたりして、それぞれの意見に耳を傾けることを大切にしています。

▶自分たちが解体したPCが新しい資源になることについては？

すごくうれしいです。最近はメディアにも取り上げていただき、僕もテレビやラジオに出演しました。それを見た近所の人に「すごいね。良かったら私のPCも寄付できないかな」と声をかけてもらえることが増えて、うれしいです。



〒599-8112 大阪府堺市東区日置荘原寺町409-1 TEL: 072-284-9222



今後も、障がい者の活躍と資源循環、そして環境負荷の低減に貢献してまいります。



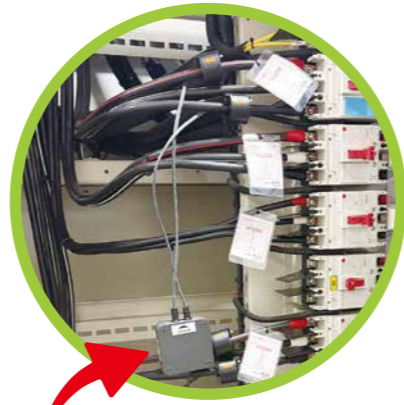
本店ビルの使用電力量の測定を開始

2026年より、本店ビルの使用電力量の測定を開始しました。近年、脱炭素社会の実現やSDGsへの貢献が求められる中、当金庫でも省エネや環境負荷の低減に積極的に取り組んでいます。その一環として、大阪・関西万博で出展支援を行った株式会社SIRCが提供するIoT電力センサユニットを導入しました。

IoT電力センサは、電気・配線工事が不要で、誰でも簡単に取り付けられる最新のセンサです。従来の計測方法と比べて、リアルタイムで空調や照明の使用電力を把握できるため、職員一人ひとりが省エネの意識を持ちやすくなりました。実際の設置作業も、同社の指導のもと職員が行いましたが、配線にワンタッチで取り付けられるだけという手軽さに驚きの声が上がりました。

この取り組みにより、電力の無駄遣いを可視化し、さらなる省エネと効率的なエネルギー利用を推進しています。今後は、計測データを活用してピークタイムの把握や空調・照明の最適化を図るほか、他店舗への展開も検討しています。

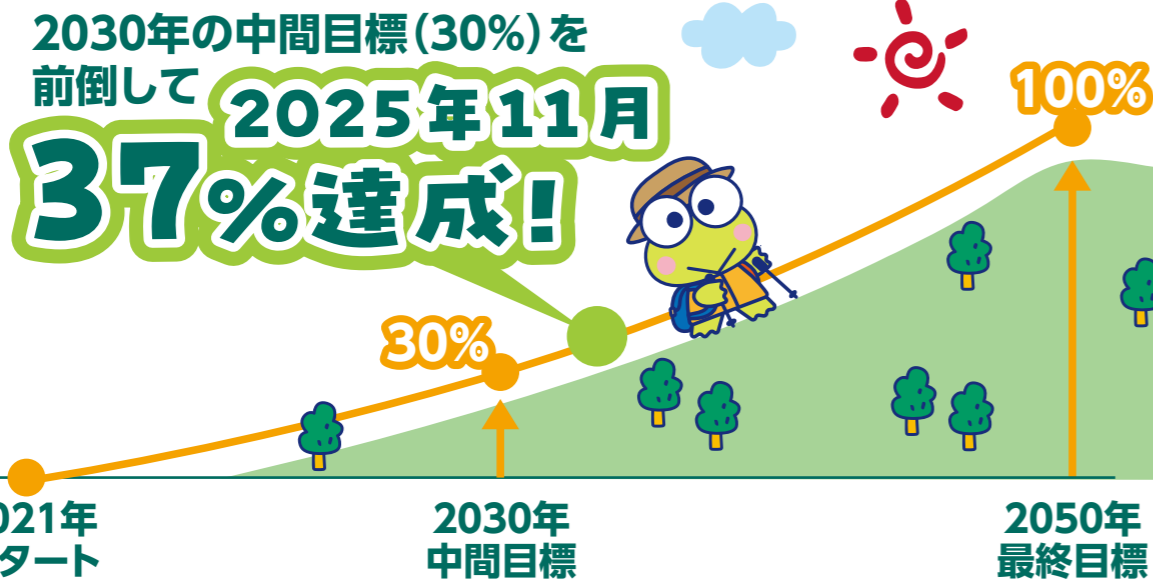
また、電力の見える化は経費削減だけでなく、環境への配慮や社会貢献にもつながります。読者の皆さまも、身近な省エネから始めてみませんか。当金庫は、これからも地域とともに持続可能な社会づくりを目指してまいります。



SIRC 株式会社SIRC (サーク)
〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-5-31 関電不動産船場ビル9F
TEL: 06-6484-5381

再生可能エネルギーへの切り替え

平野支店・今里支店・豊中支店の使用電力を100%再生可能エネルギーに切り替えました。これにより、合計10か店/全体の37% (2025年11月時点)で再生可能エネルギーの利用を実現しています。当初は2030年までに30%の店舗で再生可能エネルギーへの切り替えを目標としていましたが、今回その目標を前倒しで達成することができました。今後も順次、再生可能エネルギーへの切り替えを進め、環境負荷の低減に努めてまいります。



持続可能な地域社会づくり

当金庫は、地域とともに持続可能な社会の実現を目指し、さまざまな活動を展開しています。

Shokoグリーンマルシェ

2025年11月30日、もりのみやキューズモールBASEにて「Shokoグリーンマルシェ」を開催しました。青空のもと、2万5千人を超える来場者が集まり、環境にやさしい商品や地元の新鮮な野菜、アップサイクル・リユースに取り組む企業・団体のブースが並びました。当金庫からも職員によるバザーを出し、多くのお客様と交流。来場者からは「地域や未来のためにできることを考えるきっかけになった」「また来年も参加したい」といった声が寄せられました。今後も地域とともに、持続可能な社会づくりを目指してまいります。



商工SDGs月間

商工SDGs月間は、職員がアイデアを出し合い、SDGsの17のゴール達成に向けた取り組みを1か月間行う企画です。2021年より継続しており、今年も各店で創意工夫を凝らした様々な活動が店舗ごとに展開されました。職員一人ひとりがSDGsへの意識を高め、地域社会の持続可能性向上に貢献しています。



商店街の方々と協力して地域の美化に努めました



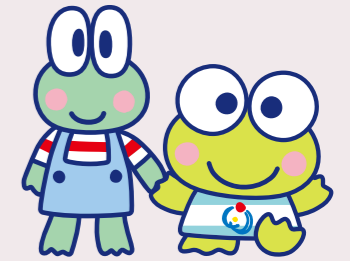
近隣小学校の登下校ルートの見守り活動をしました



来店した子どもたちにお札の数え方を教えました



地域の皆さまとともに歩む支店紹介



当金庫の各支店は、地域の皆さまとともに歩み、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。地域に愛され、必要とされる存在を目指しそれぞれの支店が特色を生かした活動を展開しています。

信用金庫の日(6月15日)

信用金庫の日には、お客さまに緑の輪が広がることを願い、4色の花の種をプレゼントしました。また、脱炭素化社会の実現に向けた取り組みとして、職員は車やバイクの使用を控えた移動を心がけました。環境への配慮を実践し、地域に緑とエコの意識を広げています。



100周年に向けた大阪城への寄付

2029年5月に迎える100周年記念事業の一環として、地元への感謝の想いと、大阪が後世にわたり世界に誇れる都市であり続けてほしいという願いを込めて、大阪城公園へ梅の木とベンチを合計100個寄贈する取り組みを進めています。2022年度より現在までに、梅の木17本、ベンチ32基、合計49個を寄贈しました。今後も地域のシンボルである大阪城公園の魅力向上と、地域社会への貢献を続けてまいります。



長年の寄付活動に対し、感謝状を拝受

長年にわたり、大阪府が推進する「生駒山系花屏風構想」への寄付活動を続けてきました。この寄付は、エコ定期「まねきeco」にお預け入れいただいているお客さまの受取利息の10%と、当金庫の役員やOB・OGによる任意の募金活動「商工さくら基金」を原資としています。2010年から始まったこの取り組みで、これまでに約2,200万円を寄付してきました。こうした長年の活動が評価され、林野庁より感謝状を拝受しました。今後も地域の自然環境保全に貢献してまいります。



東成支店

東成支店では、毎年1月に開催される「中道八坂神社の十日戎」に、職員が長年運営ボランティアとして参加しています。コロナ禍で一時中止となりましたが、一昨年前より再開し、運営ボランティアだけでなく、お祭りに来られたお子様へのお菓子配布も始めました。参加した職員からは、「地域の皆さまや子どもたちの明るい笑顔に元気をもらいました。お取引のあるお客さまにも直接感謝を伝えることができる良い機会でした。」という声が聞かれました。主催者からも「毎年参加していただき助かります。お菓子配布で子どもたちが多く来てくれて、活気あるお祭りになります」と喜ばれています。



西支店

西支店では、8月の盆踊りや12月の餅つき大会に職員が積極的に参加しています。盆踊りでは、うちわへの広告掲載を通じて支店の存在を地域の方々にアピールし、職員も全力で踊って会場を盛り上げています。餅つき大会では、職員の家族も運営ボランティアとして参加し、地域の皆さんにふるまう餅をついています。職員からは「地域の方と交流できる貴重な機会で、頼りにしてもらっていると実感できる」との声があり、やりがいにつながっています。主催者からも「商工さんがいないと餅つき大会ができないほど助かっている」と感謝されています。



高井田支店

高井田支店は、自治会が主催する演芸会(4月頃)、グランドゴルフ(6月頃)、運動会(10月頃)など、年3回のイベントに積極的に参加し、世代を超えたつながりを育てています。イベントでは、子どもとノリノリの手拍子で演芸会を満喫するなど、職員も地域の方々と触れ合える毎年の楽しみとなっています。また、皆さまが安心して楽しめるよう、積極的な声掛けやサポートを心掛けています。高井田支店は、地域の活気と世代間交流を広げ、安心して暮らせるまちづくりに貢献し、「森河内といえば大阪商工信用金庫」と思ってもらえる存在を目指しています。



これらの活動を通じて、当金庫は地域とともに、持続可能な社会の実現に向けて歩み続けます。

本業を活かした金融リテラシーの向上

当金庫では、金融機関としての専門性を活かし、次世代を担う子どもたちや地域の皆さまの金融リテラシー向上に取り組んでいます。



小学生向けマネースクール

2012年より、小学4年生を対象に「マネースクール」を開催しています。新入職員が講師となり、お金の役割や金融機関の仕事について、楽しく分かりやすく伝えることで、子どもたちが「動くこと」やお金の大切さを学ぶ機会を提供しています。



大阪府立富田林中学校「社会探究活動」への協力

大阪府立富田林中学校が実施する「社会探究活動」に協力し、金融機関の仕事や社会の課題解決についてお伝えしています。この活動は、生徒が社会の仕事を探求し、課題解決力や未来を創造する力を育むことを目的としています。当金庫は、金融の視点から学びをサポートしています。

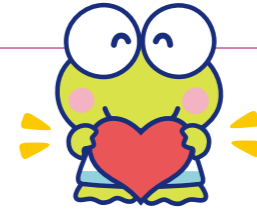


SDGs授業への協力

大阪府教育庁の「わくわく・どきどきSDGsジュニアプロジェクト」事業の一環として、八尾市立曙川中学校を訪問。生徒たちが考えたSDGsへのアプローチに対し、プレゼンテーションのフィードバックを行いました。同校は一次選考を通過し、府内13の代表校に選出。2月14日のフォーラムでは銅賞を受賞されました。

命を守るための活動

当金庫では、地域社会の安全と健康を守るため、さまざまな社会貢献活動を展開しています。



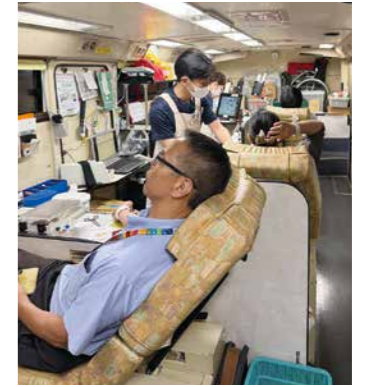
能登半島地震支援

「能登のために、石川のために 応援消費おねがいプロジェクト」に賛同し、被災地の特産品購入を通じて復興支援を行いました。この取り組みは、役職員やOB・OGによる任意の募金活動「商工さくら基金」から資金拠出されており、同基金には職員の約8割が加入しています。地域の復興と被災地支援に、当金庫一丸となって取り組みました。



防災月間の実施

9月1日の「防災の日」に合わせ、9月1日～30日を「防災月間」として設定。お客さまや職員が災害に備え、迅速かつ適切な対応ができるよう、店周のハザードマップや手作り防災グッズの掲示、防災カードの配布を行いました。防災意識の向上と、地域の安全確保に努めています。



献血活動

少子高齢化による献血者数減少への対応として、今年も献血活動を実施しました。当日は大阪府赤十字センターより献血バスを本店駐車場に配車いただき、多くの職員が献血に協力。地域の医療を支えるため、継続的な取り組みを行っています。

文化・芸術振興への取り組み ～地域と未来をつなぐ社会貢献活動～

当金庫は、地域社会の文化・芸術振興を目的とした社会貢献活動を積極的に推進しています。

日本美術の鉦脈展への協賛

2025年6月21日から8月31日まで大阪中之島美術館で開催された「日本美術の鉦脈展」に協賛しました。本展覧会は、埋もれている日本美術の作者や作品を掘り起こし、未来の日本美術史に定着させることを目指し開催されました。会期中には9万人を超える来場者が訪れ、「未来の国宝」を探す旅を楽しんでいただきました。協賛をきっかけに、初めて美術館を訪れた方も多く、地域の文化施設の認知向上にも貢献しました。



大阪フィルハーモニー演奏会への職員参加

音楽には癒しや感性の向上など、さまざまな効果があることから、福利厚生の一環として職員の演奏会参加を実施しました。210名の職員が2025年11月21日、大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏会を鑑賞しました。定員を上回る応募があり、急遽チケットを追加購入するほどの高い関心が寄せられました。音楽体験を通じて職員の間力や感受性を育むとともに、地域の文化活動を支援しています。



ユニバーサルツーリズムにおけるボランティア参加

当金庫では、誰もが安心して楽しめる社会の実現を目指し、ユニバーサルツーリズムの推進に取り組んでいます。ユニバーサルツーリズムとは、障がいの有無にかかわらず、すべての人が気兼ねなく旅行を楽しめるように設計された取り組みです。

今回、障がい者に付き添う介助者や引率者をサポートする「ウエルカム・サポーター」を職員から募集し、8名がボランティアとして参加しました。参加した職員は、旅行をより安全で快適なものにするため、現場で積極的に支援を行いました。今後も当金庫は、多様な人々が共に楽しめる社会づくりに貢献してまいります。



- 8:40 ▶ 12:00 通常勤務
- 12:00 ▶ 14:00 昼食、移動
- 14:00 現地集合、ミーティング
- 15:00 お出迎え
- 15:15 ▶ 19:30 大阪・関西万博会場案内サポート、お見送り
- 19:30 ▶ 20:00 ミーティング、現地解散
- 20:00 ▶ 21:00 当日のボランティア参加者と万博を楽しむ



コミュニケーションBOOK

CSR

～ REPORT 2026 ～
[2026年3月期]



KEROKEROKEROPPI

大阪商工信用金庫 広報CSR室

〒541-0053 大阪市中央区本町2丁目2番8号 TEL (06) 6267-2865

© 2026 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L664509

2026年5月発行